

令和4年9月17日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

令和4年度 第8回

学びの段階

今朝の開会挨拶は今井副理事長でした。前回のフォーラム講話の最後に、世の中を見る上で参考にして戴きたいヒントとして、緊急金融措置令・金利・ネバダレポートを挙げました。そして、「本氣になって調べて下さい」と申し上げたことを思い出して、実際に調べたとのことでした。話を聞いて、ただ聞いて流したのでは駄目だということを今井副理事長が念押ししたのだと思います。

学ぶということは、真剣に学びたいと思わなければ身につけません。そして、学んだことを自分なりに納得するコツは、人さまに話をする事です。それも、ただ単に話をするだけではなくて、教えるとよろしい。人さまに教えるためには、自分がよく学ばなければ分かりませんから、そういうレベルになれば自分自身が納得し覚えます。

話を聞く側は、ただ話を聞いているだけでは忘れます。忘れては困ると思ってメモを取りますが、メモをすると大体安心してしまっ忘れてますね。次に同じ会合があると、前日とか当日に前回のメモを見て、これを調べなきゃいかんと思っても間に合いません。やはり自分自身にメッセージを出し続けないと人間は忘れます。

私は自分で自分に対するメッセージを常に出し続けています。メッセージを出し続けていると習慣になります。習慣になると、分からなかった事や気になったものを調べる癖がつきます。あれが分からないから調べたいと思い出した時は、スマホで見たりネットで見たりします。私は辞書を引く癖がついていたのですが、最近は簡単なものであればスマホで見えるようになってしまいました。ごく簡単なものがずっと出てきます。それをさらに詳しく調べるためには、もうちょっと時間をとって調べます。やはりスマホで見たものは、どうも飽き足りないし、食い足りないことが多いので、その先を調べるようにしています。

本氣で調べる癖をつけるには、どうしても段階を踏まないといけません。調べようと思っていて忘れてしまうというのは、そんなに真剣ではない。メモを見て思い出して調べるというのは、氣になっているという段階です。氣になっているから確認しようとするわけです。これが段々習慣化して身についてくると、調べなければと思ったものを調べないと落ち着きません。私の場合、何とも気持ちの収まりがつかないから、寝る前に思い出した

ら起き上がって辞書をひくなり、友人に聞くなり（夜中に起こされた友人は迷惑でしょうが）自分が納得するところまで調べないと一日が終わりません。無意識にそういう行動に移るところまで自分を鍛えておけば、何とかかなと思います。

調べることを習慣化するのに一番良いのは、先ほど申し上げたように、人さまに話をすることです。聞かれて答えられないと困りますから、半ば義務化して調べることになりま。ただ、自分が全て完全に納得し、人さまに教えられるところまでになってから話をするというのは、一見良さそうに思いますが、まず続きません。ですから、知ったかぶりだと思われても、一知半解だと思われても良いと開き直すことです。

私が詩吟を習い始めた時、坂本坦道先生から「詩吟の出来るチャンスがあったら、下手でも構わないからおやりなさい。やって恥をかけば恥をかくほど覚えるようになるから」と教わりました。今思うと冷や汗の出るような状況ですが、「私は詩吟を習い始めたので・・・」と言って、あちらこちらで披露した記憶があります。面と向かって「お前は下手だなあ」と言われることが何度もありましたが、「下手だからやるんじゃないか」と言っている間に、だんだん人さまの前で披露するのに慣れてきました。するとカラオケでも、音痴が治ったとは言いませんが、いつの間にか「ずいぶん聞けるようになった」と言われるようになりました。これは、出来たなら披露するのではなくて、練習している間でも披露するということを実践して、なるほどそうだと実感したことです。

ちなみに今井副理事長のように、本氣になって調べて下さいという私の言葉通り、実際に調べた方はどれぐらいおられますか。

・・・残念ながらいませんね。では、少しお話ししましょう。

今井副理事長が円安について、27円安の1ドル143円だと解説していました。私は、円安はこんなものではないと思っています。100円を割ってしまうだろうと思っていますので、目先でどんどん円安が続いたとしても、別に一喜一憂しておりません。

何故そう考えるか。何度もお話していますが、昭和22年2月17日の緊急金融措置令を調べて下さい。当時の事を調べると、現時点とだぶって見るようになると思います。そうすると、インフレが浮かぶはず。いったいどれくらいのインフレかというと、当時の日本はハイパーインフレだと学者は解説していますが、せいぜい物価は100倍上がっただけです。他の国々でハイパーインフレが起きた時は100倍どころではありません。外国で行き過ぎたインフレは5000倍上がっています。これでは通常生きていられるわけがありません。私が現時点で同じことが起きるであろうと申し上げるのは、日本国内で起きたことをベースにしてお話をしているからです。ですから、物価の上がり方はこんなものではな

と思っています。政府が小手先細工で物価が上がらないように色々な動きをしています
が、根本から直そうとしていません。政府が打っている手は全て目先だけの姑息なものば
かりですから、物価が100倍ぐらい上がるのは当たり前のことだと思っています。

他の国々を見るとハイパーインフレが起きた時、中小零細企業では社長が自殺をしたり、
倒産が当たり前の如く起きています。日本では経営者の自殺より、コロナ禍で生きていく
ことが大変だと、精神的に問題を抱えて自殺する方が多いと言われていますが、過去の歴
史と比べてみると、ゼロが1つ足りない。コロナでも亡くなる方の数が一桁足りないと思
っています。

今の日本は、前にも申しましたが、茹でガエル状態のままだと思っています。生ぬるい
水が少しずつ熱いお湯に変わって来つつある状況だと思っています。肝心なことは、ぬる
ま湯がだんだん熱くなっていくと、熱湯になった時には飛び出そうとしても飛び出せない。
ぬるま湯の間に自分が生き延びる方策を講じて、熱湯になる前に飛び出さなければなりま
せん。そのタイミングを見なければいけないと私は考えていますので、緊急金融措置令の
ことは何度も申し上げています。

ですから皆さんは聞きっ放しにしないで調べて下さい。調べてみれば自分ではっと悟る、
自覚出来ます。そうすると打つ手が頭の中に湧いてきます。人の話を聞いただけでは湧い
てきません。人の話を聞いて、そうかなあと思って自分で調べて、考えて納得すれば打つ
手が見えてきます。長くなりましたが、今井副理事長が言われたことの補足を申し上げま
した。

「学ぶ」

では、テーマに参ります。本日のテーマは、「学ぶ」です。論語の中に「学ぶ」という
言葉は沢山ありました。レジュメに10章とり上げました。私の後について素読をして下さ
い。

① し いわ 子曰く、まな 学とき びて時これ に之なら を習また う。亦 よるこ 説とも ばしえんぼう ならずや。朋よ の遠方きた 自あ り来また る有また り。亦
たの 樂ひと しからい ずや。人いき 知らどお ずして 慍また らくん ず、亦 君子し ならずや。

(学而第一・1)

細かく解説しませんので、気になったらどうぞご自分で調べて下さい。

ここは、学ぶと楽しいよ！ 楽しいことがたくさんあるよ！ と言っています。

私は、「朋の遠方自り来る有り」と読みました。「朋有り、遠方自り来る」と読ませる
本が多いのですが、それですと、「友人がいて、はるばる遠くから私に会いにやってきた。
何と楽しいことだよ…」と解釈することになります。私は、来たということに力点を置い

て、「昔いっしょに勉強した友達が遠くからはるばる来てくれた。やっと会えた。これは楽しいね…」という解釈を致します。

学びて時に之を習う。亦説はしからずや・・・学んだり何か教わったら、随時思い出して思い出し笑いをしなさい。復習しなさいということだけれども、学んだ中で何かとても楽しいことがあったなら、その楽しいことを思い出してごらん・・・と捉えます。ですからここは、学ぶことはとても楽しい。あなたは学びの中で何か楽しさを見つけましたか、と自分に問うてみるとよろしいでしょう。

② そうし いわ われ ひ み わがみ かえり ひと ため はか ちゅう ほうゆう
曾子 曰く、吾 日に三たび吾身を省みる。人の為に謀りて忠ならざるか。朋友と
まじわ しん なら つた
交りて信ならざるか。習わざるを伝えしか。

(学而第一・4)

曾子は、曾参(そうしん)という人です。孔子と同じように、曾先生です。曾先生は所謂、孔子学園の後継者です。孔子が亡くなった後、孔子の学問を引き継いでお弟子さんたちに教えていく役割を担った、学問での承継者だと捉えられています。

ここは、反省することの大切さを言っています。反省することによって、学んだことの中身が納得できる。学びを納得できるかどうかは、何度も何度も自分自身を省みることです。「三たび」とは三回ではなく、何度も何度もという意味です。

洪澤栄一はこの「三省」をもとにして、今日一日誰に会ったか、どういう約束をしたかを寝る前に全部思い出して、納得して初めて眠りについたといいます。私はこの部分が好きですので、夜寝る前に「三省」を実行しています。皆さんにいつもお聞きする恒例の質問(良い日・嘘・有難う・体のケア・自分磨き・眠る直前の思い)を寝る前に必ず点検をして、納得して寝ています。ですからここは、学ぶことによって納得する。納得する方法を書いているとお考え下さい。

習わざるを伝えしか・・・習って自分で納得し、分かったものを人さまに伝えていたかどうか、分からずまま人さまに教えてはいないか反省をする。これは人によってやり方が違いますから、曾子は自分で納得してからでない人さまに伝えなかったというタイプの人なのだろうと私は受け止めています。

③ し いわ くんし おも すなわ い まな すなわ こ ちゅうしん しゅ
子 曰く、君子 重からざれば 則ち威あらず。学べば 則ち固ならず。忠 信を主と
おのれ し もの とも な あやま すなわ あらた はばか な
し、己に如かざる者を友とすること無かれ。過ちては 則ち改むるに 憚ること勿かれ。

(学而第一・8)

学べば則ち固ならず・・・固とは、頑迷固陋です。私は真向法でストレッチをする時、

「体が柔らかい人は、頭も柔らかい。体が硬い人は、頭も固い」と言っています。先日、友人とメタバースの話になって、私が説明をしたのですが、いま一つピンと来ていませんでした。私の持っているメタバースのイメージは、GAFAMが束になっても敵わないような類のところまで化ける可能性があるものだと思っています。最近メタバースに続いて、コモングラウンドというものがニュースになって来ました。メタバースとコモングラウンド、そこら辺のところを理解が出来る、納得が出来るとしたら、自分で経営する会社も化けるだろうなという予感があります。

ここは、学べば新しい知識を柔らかい頭でどんどん吸収することが出来る。呑み難い話や意味不明な話を、そんなものはわからん！と撥ねつけて終わりにしてしまうと、「縁なき衆生は度し難し」ということになります。学ぶことによって頑迷固陋でなくなる。学ぶとそれなりの効果があると解釈します。

過ちては則ち改むるに憚ること勿かれ・・・自分で失敗したと思ったら、直ぐにごめんなさいと言って直せば良い。これは日本人の良い特質だと思っています。

論語の話の中でこういう言い方は良くないかもしれませんが、中国の人のものの考え方は、「過ちては即ち改めざる。憚ることなかれ」を実践していると思っています。間違っても直ぐに謝らないし、間違いを認めませんから、論語とは逆のことをやっているとは私は理解しています。日本人が論語を読むと、論語を生み出した国は素晴らしい国なのだろうと思うのですが、現実の中国がやっていることを見れば、正反対ではないかと思えることが随所に見られます。論語は、理想論が沢山書いてあると思っています。

④子 曰く、し いわ まな おも すなわ くら おも まな すなわ あやう 学まなびて思おもわざれば則すなわち罔あやうく、思おもいて学まなばざれば則すなわち殆あやうし。

(為政第二・15)

学まなびて思おもわざれば則すなわち罔あやうく・・・学まなぶだけで、自分で考えない。聞きいただけでは、すつと忘わすれてしまう。したがって学まなんだ後は、自分自身の頭でよく考えないといけません。学まなんで思おもうことによつて、自分自身に明あかりも見みえてきます。

思おもいて学まなばざれば即すなわち殆あやうし・・・自分で思おもうだけで学まなばなければ、自分の命いのちに関かわるぐくらい危あやうないぞと捉とえます。

したがってここは、どのように学まなべばよいか。師匠ししやうから聞きいたなら、聞ききつ放はなしにせずずに必かならず自分自身で考かんえる。本ほんを讀よんで覺おぼえた後のちには、必かならず自分おのれで考かんえる。学まなぶ上の上での方かた法はうは、必かならず考かんえることが必かならずだだと強つよ調ていしています。

⑤子 曰く、し いわ もく これ しる まな いと ひと おし う なに われ あ 黙もくして之これを識しるし、学まなんで厭いとわず、人ひとを誨おしえて倦うまず。何なにか我われに有あらんや。

(述而第七・2)

これも孔子の立場に立って書いています。学ぶということを学問で捉えます。

黙して之を識し、学んで厭わず・・・黙って覚え、学び続けても飽きない。学ぶということはとても楽しい。楽しくなければ学ぶ意味がない。

西郷隆盛は沖永良部島に流された時、柳行李にぎっしり本を詰めて持っていきました。それだけでは飽き足らずに、同じように流罪に服している人の中には学者がいましたから、その学者が持っている本も借りて読み続けたという事実があります。真剣に本を読んで読んで読み抜いて、自分で考えた結果、西郷隆盛の人格が出来上がった。沖永良部島に流されて、本を読んで考えなければ、西郷隆盛の後世に伝わるような人格は出来なかったろうと考えています。

人を誨えて倦まず・・・人を教えることも嫌がらない。相手が覚えられない場合でも、教えること自体が好きで好きでしようがない。

中江藤樹は、今で言えば知恵遅れのお弟子さんに全身全霊で教え込んで、医者になりたいという本人の希望をかなえさせました。教える楽しみがあったから、万卷の書物を読み込んで、必死になって教えたわけです。

ここは、教えることの楽しみ。それと、自分自身が教えるためには学ばなければいけませんから、学ぶことの楽しみ。①の論語と同じく、一心不乱で学ぶことの楽しみを説明しています。

⑥子^し曰^{いわ}く、吾^{われ}嘗^{かつ}て終^{しゅう}日^{じつ}食^{じつ}わず、終^{しゅう}夜^や寝^いねず、以^{もつ}て思^{おも}う。益^{えき}無^なし。学^{まな}ぶに如^しかざるなり。

(衛霊公第十五・30)

学ぶためには師匠がいるということです。師匠とは生きている人物だけでなく、亡くなっている人が書いた素晴らしい書物を見つけたなら、これも師です。佐藤一斎は師匠には三通りあると言っています。天地自然を師匠に出来たら一番素晴らしい。次は、素晴らしい人格を持った人物に巡り合うこと。三番目は、書物の中で師に巡り合うことです。

ここで孔子は、一日中食べなかったし一日中寝ないで一生懸命考えたけれども役に立たなかった。やはり師匠について学ぶが良いと言っています。孔子は色々な人に付いて学んで自得していったわけです。

学び方については、儒学は朱子学と陽明学があります。朱子学は、机の前に座って一生懸命本を読み考えなさいという学び方です。陽明学は、行動しその中から考えなさいという学び方です。座学を主にするか、行動を主にするかで、朱子学と陽明学と分かれていま

すが、最終的には同じところに辿り着きます。

ここは、学ぶが良いということですが、それには師匠について学ぶが良いとお考え下さい。

⑦子 曰く、君子は道を謀りて食を謀らず。耕すや餼 其の中に在り。学や禄 其の中に在り。君子は道を憂えて、貧を憂えず。

(衛霊公第十五・31)

孔子のところには、大臣や宰相といったかなり上のポストに就きたいと願う人たちがお弟子さんとして集まって来たわけです。孔子はそういう人たちに、人の道を教えるのであって、一所懸命学んでいけば自然と良いポストが生まれて来る。収入が欲しいと思って学ぶのはいけない。邪な気持ちで、良いポストに就きたいと思って学ぶのであればやめた方がよい、と言っています。

ただ、実際には良いポストに就きたくて集まって来る者ばかりですから、これは如何なものか、もう少し違った言い方があるだろうと私は感じています。

ここは、孔子ところに付いていると自然と何処かの良いポストにはつけるようだと読めばよろしいでしょう。

ちなみに、西郷隆盛と大久保利通は一時的に並び称されていますが、世に出る出方はだいぶ違っています。西郷隆盛は主君の島津斉彬に様々な建言をしました。その中で良いアイデアが沢山あるということで引き上げられ、主君の使いで様々な場に出ることによって中央で活躍していきました。大久保利通は西郷のようなことは出来ないので、主君島津久光の好きな趣味の道にどっぷり入り込んで、主君と囲碁を楽しむような関係になり、人間を分かってもらって認められました。良いポストに就くために、謀を用いてお殿様に近づいたわけです。

孔子のところに来る人たちも、ちょっと違った道で来る人が多かったのだと思っています。

⑧孔子 曰く、生まれながらにして之を知る者は上なり。学びて之を知る者は次なり。困しみて之を学ぶは又 其の次なり。困しみて学ばざるは、民 斯を下と為す。

(季氏第十六・9)

生まれながらに道理を知っている人は上の部である。しかし、生まれた時に「天上天下

唯我独尊」などと言える人はいませんね。

学んで知る人は、その次である。これが大多数で、こうなれば素晴らしい。学ぶことが自分自身が道理を知る、世に出る上で絶対必要なものであると捉えればよろしいでしょう。

困ってどうにもならなくなって学ぶというのは、あまり良いものではない。

苦しんでも学ぶことの良さを自覚できない者は、人からどうしようもないと後ろ指を指されていくものだ。

ここは、学ぶことを習慣化した人間は素晴らしい知識も得られるし、道理も自覚できる。能力の差があっても、学ぶことによってその差をだんだん縮めることが出来るのだから学ぶが良い、と理解して下さい。

⑨しかいわ ひやくこう し い もつ そ こと な くんし まな もつ そ みち いた子夏曰く、百工は肆に居て以て其の事を成し、君子は学ばて以て其の道を致す。

(子張第十九・7)

子夏が言うには、職人は職場で一生懸命仕事をすることで目的を達成しているが、君主は学ぶことにより、自分が進んでいる道、道理を極めることが出来る。

ただ単純に学んでいるだけでは役に立たない。その道を究めるところまでやりなさいと念押ししています。

子夏は孔子より44歳年下のお弟子さんです。②の曾子は46歳年下です。こういった孔子より遥かに若い人たちのグループが、次の世代を率いていったのだろうと考えます。孔子亡き後、孔子のものの考えを引き継いでいく、バトンタッチをしていったわけです。孔子塾にはそういう若い人たちも大勢習いに来たのですから、やはり大変魅力があったのでしょう。

職人が職を究めるといって、日本でいえば宮大工がそうですね。幸いにして日本は、宮大工の技の継承の仕方に国を挙げて応援しています。もちろんそれが必要だからでしょう。伊勢神宮や出雲大社の遷宮は皆さんもご存知だと思います。社殿と同じものを隣地に作って移動させる。そうやって技を継承するわけです。この道50年、60年の経験を積んだ最高レベルにいる職人が、若い職人に技を教える。教わった若者が、また半世紀かけて自分の道を究め、精髓を究めて、親方なり師匠になって次の若者を教える。それを繰り返して日本の宮大工の技を継承していくわけです。

学問を学ぶ方法も、職人が技を学んで伝えていく方法も、基本的に同じです。道を極めなければいけないということです。

し かいわ つか ゆう すなわ まな まな ゆう すなわ つか
⑩子夏曰く、仕えて優なれば則ち学び、学んで優なれば則ち仕う。

(子張第十九・13)

仕えて優なれば則ち学び・・・仕官をしてそれなりのポストについた。そこで仕事に押しつぶされる人間もいるでしょうが、その人に能力があつて余力があるならば、一所懸命そこで学びなさいということです。学んでいって更に道を究めればよろしいが、どこまで行くかは本人次第ということになります。

学んで優なれば則ち仕う・・・孔子のところで一所懸命学び、それなりに能力があつてまだまだ余力がある。そこで初めて、良いポストを推薦されたら仕えればよい。学ぶだけで精いっぱい余力がないのであれば、先生はポストをそうそう推薦はしない、と捉えればよいでしょう。

ただ色々読んでみると、現実には実力のない者が良いポスト欲しがっているようでしたし、実力があつて学びたいという者は、ポストを推薦されても実力不足だから先生の前でもう少し学びたいと言って辞退する、という二つの流れがあったようです。

これも自分自身に置き換えてみればよろしいですね。勉強したいと思つて学んでいるうちに、他の会社から引き抜きが来る場合があるでしょう。また、勤めていて余裕がある。いろいろな研究をして、どんどん新しい発明発見をし、次から次に良いポストを与えられて、更に新たな研究をする。なかなかこういう人は聞きませんが、こういう人生も悪くはないですね。

ここは、学ぶにはタイミングがあるということです。時期を逸しては学びも本物にならないし、タイミングがぴったりあえば、学んだ時の素晴らしさや自覚も常人には及ぶべくもないところまで行ける。時期が大事だと捉えます。

恒例の質問

では、恒例の質問を致します。ひと夏過ぎました。ひと夏、どうお過ごしだったか振り返って下さい。

○ この夏、良い日が続いたと思う方

大変だったとか、辛かった、苦しかった、体調が優れなかったという場合も、それを糧と出来ればよろしいですね。コロナ禍ですから、コロナにかかって大変だったとか、ワクチンを打ったら熱が出たとか、大変な思いをした方が沢山おられるし、これからも増えると思いますが、それは自分自身のものの見方を向上させる良いチャンスだと考えて、コロナと対峙してもよいのではないかと思っています。

だいいち政府はコロナを退治するための方法を結局見つけられませんでした。ワクチンを打てば大丈夫だろうと言ったけれども、ワクチンをいくら打ってもコロナにかかる人は次から次と出ています。重症者も増えているし、亡くなる方も増えています。最初の頃は、日本は欧米と違って感染する人は少ないということでしたが、どんどん欧米のように増えました。現在、コロナは更に増えているけれども、だんだんとインフルエンザと同じではないかという感覚が広がってきていて、経済を動かそうとするから旅行をする人は増えているし、コロナをあまり気にしない、コロナにかかってもあまり気にしないという風潮がだいぶ広がったと思います。

また、コロナに遭遇したことによって、ウイルスに対する学びが深まったのだろうと思います。ですから、今年の夏、コロナになったらなったなりに、ワクチンで辛い思いしたならしたなりに、良い日だったと思えるように心の持ち方を進めて行かれればよいと思っています。

○ この夏、嘘はつかなかつたし、人から嘘をつかれなかつた方
皆さん手が挙がりました。嘘には無縁の生活が良いと思います。

私の実感ですが、世間では弁護士の出番がかなり増えたと思っています。会社でも弁護士に依頼することが増えたし、或る日突然、他所の弁護士から通知を貰ったりすることが増えました。これは何を意味しているか。日本の国が荒んできたことの証明だと思っています。嘘をつくのが当たり前の中になってきたのだなと思っていますので、ここで嘘をつかない世界で生きているというのは大変貴重でございます。嘘をつかずにそのままいって貰いたいものだと思います。

○ この夏、有難うと言ひ、有難うと言われることが多かつた方

○ この夏、身体の手入を結構よくやつた方

手を挙げようか、ためらっている方がおられました。客観ではなく主観ですから、ちょっとしかやらなくても、よくやつたと自分で思っただけであればよいのです。

○ この夏、自分磨きをよくやつた方

やはり自分で自分を褒めなければいけませんね。自分で自分を褒める、それも一つの癖にしておく必要があると思っています。

○ 昨晚寝る時、明日以降を<良いことがあつたな>と過去形で思つて眠つた方

過去形で、無意識のうちに良かったなと明日以降のことを考えられる方は、どんどん良い循環が回ってくる。俗にお金が寄ってくるという思考方法です。

令和4年を考える

では、時事評論を交えてテーマ「令和4年を考える」に参ります。

先週8日にイギリスのエリザベス女王が亡くなりました。メディアで報道された中で、エリザベス女王が言われたとても良い科白がありました。「日本とイギリスは晴れた日だけの友人ではない」・・・曇った日も雨の日も嵐の日も良い友人だという印象的な科白でした。

上皇さまは19歳の時、昭和天皇の名代としてエリザベス女王の戴冠式に参列されています。その際、27歳のエリザベス女王と通訳を入れずに英語で話をされて意気投合され、友好を深められたそうです。それが現在に繋がって、国と国との交友関係になっていっているのだと感じました。

エリザベス女王は即位されてから70年の間に、117カ国を訪問されたということです。英連邦という緩やかな同盟関係は、元の植民地を含めて56カ国が加盟しているといえますから、凄い影響力を持った女王である。しかもご自分で築き上げてきたものだという事を、亡くなられて改めて感じました。

人が亡くなると、素晴らしい方だという声が澎湃として起こります。特にエリザベス女王の場合は素晴らしいという報道ばかりですが、一つ違う見方も申し上げておくと、エリザベス女王は国際司法裁判所で有罪になりバッキンガム宮殿に住むことが出来なくなっている、という報道が一時期流れました。やはりそういうネガティブなものは一切出ないのだと感じています。

安倍元首相の場合は、亡くなられた直後は素晴らしいという話がどんどん出ましたが、今は、国葬に対して問題あり、瑕疵ありということで国会でも論争になっています。これについても政府のやり方は信念がないと思います。小手先で対応していると感じざるを得ません。

たまたま安倍さんとエリザベス女王が時を同じくして亡くなられましたが、世の中の評価がどうだったかは別にしても、色々考えさせられるお二人だなあと思っています。ただはっきり分かることは、一つの国、一つの会社、一つの組織を代表するトップによって、まるで違う評価になる。トップの人柄、人格がその国に反映されるのだということを今回つくづく考えさせられました。

亡くなった時にその人の人生が素晴らしかったかどうかは、「良い人柄だった」「素晴らしい人格者だった」と伝わるような人生が送れたかどうか、これが一つの判断基準になると思っています。

「人が世に出るチャンス」というテーマで考えると、生きている間は世に出るチャンスとと思っていましたけれども、亡くなった時も、後世に名前が残るかどうかという意味での

チャンスでもあると感じています。

お時間が少なくなりました。先ほど、日本政府は姑息だと申しました。お金に関することで見れば、例えば防衛費です。今、世の中物騒ですから、政府は防衛費を他の国々、特にNATOと比べて遜色のない数字にしたいわけです。以前はなるべく少なく見せたいと思って、お金をあちこちの予算に分散させて、防衛庁の予算だけを防衛費と言っていました。今は、他の予算で使っている安全保障に関するものを寄せ集めて、防衛費と言いつけています。これは防衛費をより大きく見せるという姑息な手段だと思います。

もう一つ、安倍さんの国葬に関しては少なく見せようとしています。最初は国葬にかかる費用は2億5000万と少なめに言いました。ところが世間から糾弾されるにつれて、警備に関する人件費がいくら、国賓を迎える費用がいくらと、どんどん金額が膨らんでいます。最初はそんなに大したお金じゃないからまあいいでしょうという言い方をしたのが、世間から言われると、どんどん金額が膨らんでいく。

同じものを姑息な手段でより膨らませる手法を使ったり、より小さく見せる手法を使ったり、これは如何なものかと思います。事実を事実どおりに言えば良いと思います。その点、昨日の中口首脳会談では、プーチンさんと習近平さんが対面で話をして発表するものはありませんでした。自分たちでむにやむにや言って、自己満足して終わりでした。発表しないだけマシだったなあと感じています。

最後もう一度、念押しを致します。学びは、聞くだけでは駄目です。自分で調べること。人に教えること。自分で考えて考えて、考え抜いて自分の仮説を作る。その繰り返しをしていくことによって、自分の血肉になります。教わったものを、手順を経て自分の血肉にして戴きたい。そうすると世の中の役に立つことができるし、自分自身も人格が向上し、更にレベルが上がっていく。私はそう信じております。どうぞお互い努力致しましょう。